

(熊本県立北稜高等学校) 学校 令和2年度(2020年度) 学校評価計画表

1 学校教育目標	
「教育は人なり」の理念のもと、「率先垂範、師弟同行」を旨として、全職員相互の研鑽及び指導法の創意工夫を図り、一人一人の生徒の健全育成に邁進する。	
1 伝統ある校風の継承と創造	2 特色ある総合高校づくり
3 学力の充実と個に応じた進路指導	4 教育環境づくりの推進
5 人権教育の推進	6 安全教育の推進
7 地域社会から信頼される学校づくり	

2 本年度の重点目標					
1 愛情ある生徒指導	2 基礎学力の定着	3 個に応じた進路指導			
4 美しい環境作り	5 安全教育の推進	6 家庭・地域社会との連携強化			

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	職員の資質向上	はたらき方(学校)改革	業務負担軽減及び学校行事の精選と超過勤務の削減を積極的に見直す。	運営委員会にて各業務の成果を検証し、業務内容の精選と教育活動の効果的な改善に取り組む。	A	運営委員会及び各種委員会の場においても積極的に提案するなど改善に取り組み、会議時間や回数の削減も含め超過勤務や業務偏重、負担感改善は概ね良好である。
		教科指導力の向上	個に応じた興味・関心等を引き出す指導の工夫と授業方法を工夫し、主体的・対話的で深い学びを実現させる。アクティブラーニング等を活用するなど能動的学習による基礎学力の向上を目指す。	・研究授業や公開授業を毎学期実施し、合評会や研究協議を行い、授業改善に向けた研修に取り組む。 ・外部人材や地域連携活動による学習を深化させる。	B	公開授業週間の実施や授業研究など積極的に取り組み、個に応じた授業の工夫・改善に努めている。特に本年度は、新学習指導要領の改訂に向けて、各教科で検討を進め評価の観点を重点に魅力ある授業づくりについて協議してきた。また、コロナ禍ではあったが、外部講師の積極的な活用や実地研修など実学の学びにも力を入れながら取り組んできた
		生徒指導力の向上	生徒一人一人の特性を理解し、個に応じた適切な指導による人格形成を支援する。	・職員間及び中学校との連携強化や校内職員研修等による生徒情報の共有と組織的支援体制づくり、カウンセリングマインドの養成。	B	校内研修や周知等での情報発信や対応のあり方など共有に努めている。支援体制については個に応じた生徒へ寄り添った対応が十分ではない。
		保護者との信頼関係の構築	保護者と積極的にコミュニケーションを図り、信頼を得られるよう、教育実践を行う。	・課題を先送りにせず、迅速かつ組織的に適切な対応に努める「報連相」。 ・配慮を要する生徒や困り感のある生徒には個々に応じた誠実な対応を心がける。	B	比較的大きなトラブルはなく対処できているが、組織的な連携体制の共通した認識と強化していく必要がある。教育相談部を中心に担任及び関係職員との情報の共有ができており、外部機関との連携した対応により大きなトラブルもなく対処できている。
	開かれた学校づくり	保護者・地域住民との連携	積極的に情報発信を行い、魅力ある総合高校としての推進を図る。また、学校行事に保護者等に参加を	・中高連携や高大連携及び企業間交流を実施する。 ・学校の行事や学習の成果などについて、ホームページ上のブログを毎	B	玉名市役所を主とする県立大学や九州看護福祉大学との地域交流をスタートさせたので、生徒の学びに繋げていきたい。コロナ禍のなか、通常の学習や

			<p>促し、地域関係機関との連携を図り、学校の魅力を理解してもらおう。育友会総会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学年行事等の出席率70%以上を目指す。 	<p>日更新する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農産物の販売や奉仕作業など、地域住民に生徒の活躍する姿をPRする機会を増やす。 ・学科ごとに中学校との交流事業を実施する。 		<p>行事ができず、情報発信も十分ではなかった。</p> <p>小中学校や福祉施設等の出前授業や交流学習、玉名市と連携した体験学習を行うことができた。</p>
学力向上	学習習慣の育成	基礎学力の定着	<p>北稜タイムで「マナトレ」を有効に活用し、落ち着いた学習環境をつくり、計画的・継続的に取り組み学習の習慣化を身につける。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「マナトレ」を実施することで、つまずきのある部分を把握し、学習支援することで意欲向上を図る。 ・週末の家庭学習課題（普通教科）を与え、学力向上を図る。 	C	<p>北稜タイムは各学年で生徒の実態に応じて行っている。また、学習成果を確認するためのテストも実施し、学力の定着を図っている。</p> <p>各教科家庭学習課題を与えて学習習慣の確立を図っているが、ただ課題をこなすだけで、学力向上につながらない生徒が多い。「学びの基礎診断」の結果、D3という厳しい状況にある。</p>
	学力の向上	個別指導や発展的な学習指導の推進	<p>個別指導による学習指導で欠点科目保持者をゼロに近づける。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・考査前指導、個人指導を充実させ、自ら学ぼうとする力を身につける。 	C	<p>各教科さまざまな取り組みを行っているが、成績不振者ほど自ら学ぼうとする意識の醸成がまだ不十分な状況にある。</p>
<p>発展的な学習をしようとする意欲を喚起する。</p>			<ul style="list-style-type: none"> ・目標を明確化し、専門性を生かした模試や検定試験に積極的に取り組ませる。 ・新聞記事やコラムを活用し社会に目を向けさせる。 	C	<p>各学科・学年の取り組みにより積極的に検定試験に取り組む生徒がいる一方、課外や模試への取り組みが不十分な生徒が多い。</p> <p>各教科や学年で新聞記事やコラムを活用し、社会に目を向かわせる取り組みを行っている。しかし、主体的に新聞や本を読む生徒は増えない状況である。</p>	
キャリア教育（進路指導）	進路意識の啓発	進路の早期決定と目的意識の啓発	<p>各学年・学科の連携と継続した進路指導の展開と全職員によるキャリアカウンセリングの実施。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・年間を通し職員に対するキャリアカウンセリングの啓発活動。進学ガイダンス、職場見学、インターンシップ、オープンキャンパス等に積極的な参加。 	B	<p>職場見学は計画通り実施できたが、コロナ禍の影響で中止になる行事等も多かった。就職試験の解禁日も後倒しとなり、指導に苦勞する部分があった。</p>
	進路希望の達成	進路目標実現の進路保障	<p>ミスマッチを解消し、個に応じた就職・進学体制の確立と進路目標達成100%を目指す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全職員で情報の共有化を図り、組織として進路指導にあたり、受験対策のため、進路目的別の課外とともに個別指導の充実を図る。 ・企業訪問を積極的にを行い、そこで得た情報を生徒への指導、支援に活かす。 	A	<p>求人数が減少したり、求人票や進学用調査書の様式変更があったりするなど、変化に対応した指導支援を行うことができ、生徒の希望に応じた進路指導と進路目標が達成できた。</p>
生徒指導	基本的な生活習慣の確立	清々しい整容	<p>整容指導にかかる継続指導の対象者をなくす。</p> <p>地域の皆様から愛されるような清々しい制服の着こなしを目指す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・整容指導に対する統一した意識を全生徒と全職員が持ち、自治自立の精神育成を目標に、厳しい中にも愛情を持って粘り強く指導する。 ・地域から愛され信頼されることで自立と自信が持てるよう指導する。 	B	<p>毎月の整容検査においては、生徒指導部、各学年、担任が協力して対応することで、大幅な改善がみられる。</p> <p>職員は各生徒の状況に応じた丁寧な指導を工夫できている。</p>

		マナーの向上	あいさつや目上の人への言葉遣い・正しい道徳を身に付けさせる。 携帯電話の利用についてのマナー向上を意識付ける。	・積極的なあいさつや公共の場におけるマナー向上を機会あるごとに指導する。 ・「携帯電話利用ルール五箇条」を遵守するよう生徒会中心に呼び掛ける。	B	言葉遣いに関しては、全体としては良好だが指導の必要な生徒も見受けられる。また公共の場におけるマナーでは地域の方よりご助言を頂くこともあるので、生かしたい。 携帯電話・スマートフォンの取り扱いについては、校内持ち込みに関するルールの指導徹底に努め、適切な使用方法を学ばせたい。
人権教育の推進	学校全体で取り組む人権・同和教育の推進	人権教育の内容の充実	人権意識の確立を促す。 授業や部活動、学校行事などの校内での生徒との関わりのみならず、家庭での様子を把握し、生徒を多面的に理解し、生徒と向き合う時間を確保する。	・授業やホームルーム活動、部活動や学校行事等、日々の関わりの中で、常に生徒達の人権を尊重した関わりを積み重ねる。 ・人権講演会や人権学習LHRを通し、人権について考える機会を重ねていく。	A	各学期1回の人権学習LHRと2学期に人権教育講演会を行い、生徒の人権意識を高めることができた。
		職員研修の充実	人権・同和教育に関する研修を通して人権感覚を磨き、人権意識を高める。またスクールカウンセラーの協力を得て、カウンセリングマインドを養う職員研修を実施する。	・生徒を多面的に理解し、人権感覚を磨くための校内研修を実施するとともに、校外における様々な人権教育研修会への参加を促す。	A	7月に教育相談部による生徒理解研修で職員の共通理解を図り、人権尊重の視点に立った教育活動を行うことができた。また、人権教育全員レポート研修会を実施し、各自の教育実践を人権教育の視点で検証しあうことができた。10月には外部講師による多様な性に関する研修を行い、職員の知識と理解を深めることができた。
		特別支援教育の体制づくり	学習面、生活面における困り感を持つ生徒の支援を積極的に行い、学校における自立的生活を促す。	・職員の共通理解のもと、スクールカウンセラーや関係機関との連携を強化し、組織的に支援できる体制を確立する。また、との連携を強化する。	A	個別の指導計画作成の徹底、活用、支援員による充実した支援を行うことができた。また、学年と教育相談部が連携をし、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーにつなぐことができた。
いじめ防止等	すべての生徒にとって安心・安全な生活ができるいじめのない環境の確立	いじめを早期発見できる体制づくり	日常生活の中で生徒としっかりコミュニケーションをとり、生徒の様子を的確に把握する。また生徒の変化やサインに気付き、職員間で情報を共有し、担任を中心に組織的に早期対応する。	・「心のアンケート」を年3回実施し、生徒状況の把握に努める。 ・人権教育と結びつけ、生徒の心のきずなを深められるような講演等を行う。 ・学年団による情報交換を定例化し、いじめ事案が発生した場合、管理職への報告と対応マニュアルに沿って事実正確な情報を収集し、迅速に対応する。	A	年3回「心のアンケート」を実施し、いじめのサインを早期に発見、対応することによって、いじめの発生や重大化を未然に防ぐことができた。学年から挙がった情報を教育相談部会で精査し、すぐに対応することができた。
		いじめを早期解決する組織づくり	常に最悪の事態を想定し、担任、学年団を中心に組織的な対応を図る。			
地域連携(コミュニティ・スクールにおける学校運営協議会の推進)	防災型コミュニティ・スクールにおける学校運営協議会の推進	学校運営協議会での共通理解と協力体制の構築 防災教育の	学校運営協議会の協力体制と防災教育を確立する。 学校防災(豪雨及び土砂災害・地震・津波等)マニュアルの職員間の共通理解。 日常的な防災意識を高め	・学校運営協議会を実施し、学校防災(豪雨及び土砂災害・地震・津波等)マニュアルの見直し、点検と確認を行う。 ・職員間での共通認識を図り、日常的に学校危機管理意識を高め、教科	A	学校危機管理の見直しと改善を行い、学校運営協議会においては、新型コロナウイルス感染症防止対策も盛り込んだところで作成し、避難訓練や消火訓練のほか、玉名市県立3校合同会議を実施してきた。また、いじめ防止基本方針の改訂に伴い見直し作成を行い、県への報告も終え

		充実	るための防災教育と避難訓練の実施。	と関連付けた防災教育に取り組む。 ・学校安心メールの積極的な活用。 ・避難訓練を年2回以上実施する。	た。さらに新型コロナウイルス感染症防止に向けた職員・生徒の意識も高く、対策と予防にも継続して取り組んでいる。
--	--	----	-------------------	--	--

4 学校関係者評価

- ・学校全般的な運営について、職員の皆さんには大変お世話になっており感謝しています。
- ・進路（就職先）の開拓について育友会としては、育友会費より費用の捻出を行える場合は、旅費等に当てるなど有効活用してほしい。
- ・小学校・中学校との連携を増やし、学校PRに繋げていければと思う。
- ・他の高校に見られない5学科が、それぞれに特色をもった教育を行っておられ、教育活動の充実した学校だと思います。
- ・生徒数の減少に伴い、ご苦勞も多いと思いますが、学力向上及び生徒指導、さらには進学就職指導にもご尽力いただき地域の誇りに感じます。今後も地域人材の担い手として育成されることを期待しています。

5 総合評価

- ・A・B評価の合計が83.4%で、概ね総合的には評価できます。しかし、学力向上の3項目でC評価となっています。本校は、総合高校の特色を生かした教育実践を目指していますが、生徒や保護者の満足度を上げていくためには、生徒一人一人に向き合い、個々に応じた指導を行い、学力の充実を図って行くことが大切だと思います。
- ・令和2年度はコロナ禍により評議委員会をはじめ各種行事にも参加しておりませんし評価する状況ではありません。しかしながら、自己評価で人権教育、地域連携の施策では、しっかりと実践しており、コロナ対策の中頑張っていたことが窺えます。学力向上全てでC評価については少し気になります。これからも北稜高校の特色を生かし「学びたい」学校づくりに取り組んでほしいです。
- ・コロナ禍で、生徒の進路指導など目標が達成できたのはすばらしいと思います。学習面の向上では「させる」ことに重点をおいているように感じます。何故勉強するのか？何のためにやるのか意識付けが大事なのではないのでしょうか。教育目標も難しいので、どんな人物に生徒を育てたいのか明確に掲げるといいと思います。

6 次年度への課題・改善方策

- ・特別な配慮や支援体制を強化し、全職員が共通理解のもと生徒一人一人としっかりと向き合いながら人権を尊重し、個性を伸ばす指導を重点に取り組む。
- ・各学科・教科等においてSDGsの項目を共通の主題とした考え方を意識した主体的な学びにつなげる。
- ・それぞれの学科で学んだ知識や技術を、生徒自らが主体的に考え地域や誰かのために役に立つ経験や体験を積み重ね、将来の進路目標を達成できるような授業の工夫・改善に取り組む。